



姫路市 市民活動・ボランティアサポートセンター



開設10周年記念フォーラム

あたらしいボランティア文化を育む～これまでの10年、これからの10年

開催報告



2019年 10月26日(土) 14:30-17:20

あいめっせホール(姫路市本町68-290イーグレひめじ)

主催: 姫路市

〒670-0015 姫路市総社本町112番地 市民会館3階

TEL: 079-281-2660 FAX: 079-281-2662 E-mail shimin-support@city.himeji.lg.jp

ホームページ <http://himeji.genki365.net/>

開催の目的

令和元年5月30日に市民活動・ボランティアサポートセンターが開設10周年を迎え、ボランティア活動をはじめとする市民活動のこれまでの取り組みを共有するとともに重要性や意義を再認識し、今後につなげていくため、記念フォーラムを開催した。

開催概要

1. 日時

令和元(2019)年 10月26日(土) 14:30-17:20

2. 場所

姫路市男女共同参画推進センター あいめっせホール
(姫路市本町68-290イーグレひめじ)

3. 参加者

約150人

4. プログラム

(1) オープニング

- 主催者挨拶 姫路市長 清元 秀泰
- 来賓挨拶 姫路市議会議長 阿山 正人
- 感謝状贈呈

(2) 第1部

- 基調講演
演題 「ボランティアの重要性と今後の広がりについて」
講師 姫路市長 清元 秀泰

(3) 第2部

- パネルディスカッション 「これからのボランティア活動のあり方」
コーディネーター
新川 達郎 氏(同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授)
パネリスト
前川 裕司 氏(認定特定非営利活動法人コムサロン21 理事長)
陰平 康則 氏(生活協同組合コープこうべ第7地区本部 本部長)
森 雅彦 氏(社会福祉法人姫路市社会福祉協議会 事務局長)
小西 玲奈 氏(ひめじキッズスマイル 代表)

※開演前の13時50分～14時25分の間、「センターの10年のあゆみ」についてスライドショーを流した。



(1) オープニング

○主催者挨拶 姫路市長 清元 秀泰

挨拶概要

本日は、「姫路市 市民活動・ボランティアサポートセンター開設10周年記念フォーラム」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

姫路市では、市民一人ひとりが積極的に社会参加、社会貢献できる仕組みづくりを進め、多様な市民活動団体を支援することを目的として、平成21年5月30日に市民活動・ボランティアサポートセンターを開設しました。

センターではボランティア活動やNPO活動、市民活動のより一層の活性化を図るため、これらの活動の大切な特性である「自主性」や「自発性」を尊重し、活動しやすい環境を整えるなどの側面的支援を中心に支援を行ってきました。また、行政と市民活動団体や各種団体との協働を進めるため、市民活動に対する理解を促進し、行動するきっかけをつくること、組織運営や活動内容の充実を図ること、ネットワークづくりを進めることを目標に、活動相談、各種情報の収集・提供、講座の開催等を行ってきました。

この間、行政と各種団体及び地域との協働活動は着実に進んできたものと認識しています。本年、センターの開設から10年が経過し、さらに令和の時代は人の時代、人を大切に行政のためにも、市民活動・ボランティアサポートセンターを中心とした皆様のボランティア活動を応援することが行政の長としてもっとも力を注いでいかなくてはならないことだと思っています。

今日ここにお集りの皆様には、多年にわたり、地域のため姫路市のために心血を注いでいただいたと思います。これからもこの市民活動・ボランティアサポートセンターを中心に様々なボランティア活動が、充実した皆様の人生をしっかりと支えていけるような活動になりますことを心から祈念しまして私の挨拶とさせていただきます。



○来賓挨拶 姫路市議会議長 阿山 正人

挨拶概要

本日、「市民活動・ボランティアサポートセンター開設10周年記念フォーラム」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

社会情勢の変化に伴うライフスタイルや価値観の多様化により、地域が抱える課題も複雑・多様化しており、従来の行政主導のまちづくりから、市民の皆様と行政がそれぞれの特性を活かして、共に地域を創り上げていく「市民共治」への移行が求められています。

このような中、本市では、平成21年5月に「市民活動・ボランティアサポートセンター“ひめじおん”」を開設し、市民やNPO、ボランティア団体等の皆様の活動を支援してきました。開設から10年という節目を迎え、本日お集りの皆様を中心に市民共治が実現されていることは大変喜ばしく、本日のフォーラムを契機に、地域課題の解決に取り組む意識の向上が、より一層図られることを期待しています。



○感謝状贈呈

市民活動・ボランティアサポートセンター登録ボランティア及び登録団体の中で、センターの事業活動に特に貢献していただいた方を対象に感謝状を贈呈しました。(敬称略)

〔個人〕

個人ボランティアとして、永きにわたり傾聴ボランティアをしていただいています。

宝山 敏 「ワクワクする仲間を創る会」 代表
岩田 和代 センター登録個人ボランティア

過去に開催された連携交流事業「ひめじおんまつり」の全てにおいて、実行委員を務められました。

川石 雅代 「特定非営利活動法人おはなしくれよん」代表
橋 正人 センター登録個人ボランティア
長谷川 香里 「納屋工房コミュニティスペース」代表

〔団体〕

過去に開催された連携交流事業「ひめじおんまつり」の全てに参加され、イベントの盛会に貢献されました。

たぬきクラブ (代表 木村 修一)
パソボラaiaiai (代表 一柳 武士)
銭英会 (代表 井上 堯子)
千鳥会 (代表 吉川 年彦)
しの笛 風の音 (代表 城山 如水)
日本ボーイスカウト兵庫連盟姫路第16団 (代表 片山 紀彦)



(2) 第1部

○基調講演

演題 「ボランティアの重要性と今後の広がりについて」

講師 姫路市長 清元 秀泰



講演概要

1 はじめに

- ・人口が減少する令和の時代、官ができることは限られており、一人ひとりの力の結集がなければ、地域の課題を解決することが難しい。
- ・人の命を大切にし、ひとりでも大きな命を残したいとの思いから医師を志した。
- ・東日本大震災発生後、医師として被災地の最前線で支援を行ったが、その際多くのボランティアや様々な善意に支えられての被災地活動だった。
- ・現在の地域社会は少子高齢社会であり、超高齢社会に向かっている。姫路市の旧4町では特に高齢化が進んでおり、地域の活性化が大きな課題である。
- ・元気な高齢者は地域の担い手になるので、高齢社会をしっかりとサポートしていくことは、地域づくりにとって重要である。
- ・行政は地域課題の活動について側面から支援していく役目を担っている。

2 市政方針～何よりも「人」にやさしい市政

- ・地域力を集めながら、人をたいせつにして、人に寄り添う市政、3つのLIFE（命、一生、暮らし）を実践していきたいと考えている。
- ・命の大切さを教えていただくのも地域の方々だと思う。

3 市民活動・ボランティアサポートセンターの紹介

- ・一過性の活動に終わらせないために、持続的な支援で人材育成を行っていく。
- ・今、災害に対するネットワークづくりは非常に重要であり、多くの人が集まることでボランティアのパワーにつながっていく。
- ・ひめじおんまつりは、各活動のPRをしていく発表の場、つながりの場、たくさんの団体が手を取り合って交流していく場であり、新しい化学反応や新しいタイプの支援も生まれていくのではないかなと思う。
- ・ひとりひとりが参加しやすいボランティアこそが継続性のあるボランティアであり、そのマッチング事業こそ行政はしっかりとシステム作り力を注いでいくべきである。



- 4 地震の体験と、そこから学んだこと(東日本大震災において間近で見た活動)
- ・災害ボランティアを行うにあたっては、食事・宿泊場所は自分で用意し、交通手段は自分で確保する。また、「がんばって」という言葉は極力使わない。
 - ・持続性のある災害支援をするためには、しっかりと体調管理をしておく。
 - ・災害時には行政の支援だけでは不十分で、行政が行き届かないところにこそボランティアの力が必要になる。
 - ・地域とNPOやボランティア団体との連携が不十分だと善意の押し付けになってしまう。
 - ・もし、播磨地域で災害が起こったら、ここにいる地域で活躍されている皆様が司令塔になっていただかなくてはならない。その際、行政の足りないところのお力添えをぜひお願いしたい。
- 5 おわりに
- ・私の協働のイメージとして、例えば、「行政からお金をもらって地域が頑張れ。」ではなく、「地域を盛り上げるためにこういうことをしたいので、行政の力を貸して下さい、こういう人を出して下さい。」であると思っている。
 - ・人口減少や少子高齢化の中で、市民活動の担い手や活動資金の不足の問題等に対し、多くの企業に参加してもらったり、ボランタリー活動の見える化も重要である。
 - ・地域団体やNPO、ボランティア団体など多様な市民活動が協力していくことがこれからのまちの発展につながっていく。
 - ・支えられる側も持てる能力を活かして支える側となって、共助社会を実現していくことが大切である。



(3) 第2部

○パネルディスカッション 「これからのボランティア活動のあり方」



パネリスト

前川 裕司 氏(認定特定非営利活動法人コムサロン21 理事長)

- ・自治会との協調とともに世代交代の難しさがある。
- ・活動には自己実現型と地域改革型があるが、これからは後者が重要で、これを行政にまかせておくだけでいいのか。様々な連携、協力が必要。
- ・NPOなど団体の活動には、書類作成能力が必要。
- ・行政の各部所との横串の連携も必要。ひめじおんの役割は大きい。



陰平 康則 氏(生活協同組合コープこうべ第7地区本部 本部長)

- ・6割の人がボランティアに興味がある一方、実際に参加するのは2割にとどまっている。
- ・全員参加型を目指す。自分ができることを少しでもする。そうすれば、絆が生まれて次につながっていく。
- ・課題に対して、今後の生活がどうなるのか。リスクなど先のことを今のうちに考えておかなければならない。



森 雅彦 氏(社会福祉法人姫路市社会福祉協議会 事務局長)

- ・社協支部の人材不足、NPOやボランティア団体などとの交流・連携が課題である。
- ・いずれ自分も世話になるから、今のあいだに活動しておくんだと言われたことがあるが、これは地域で住み続けるんだという意識の表れである。
- ・ひめじおんと緩やかな連携・協力をしていきたい。



小西 玲奈 氏(ひめじキッズスマイル 代表)

- ・人、資金、地域との連携という3つの課題がある。本人のモチベーションをどのように保つのか、家族の理解をどのように得るか。また、地域との連携については世代間のギャップを感じている。
- ・地域改革型をしながら自己実現をしていきたい。地域を意識した教育が大切である。
- ・企業と団体とをつなげる役割をひめじおんに期待したい。
- ・例えば、市の重要な事業に取り組めるなど、活動する側に希望があれば頑張れる。



コーディネーター

新川 達郎 氏(同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授)

- ・これまでの活動では対応できない課題をどうしていくのか。
- ・キーワードとしては、みんな参加というのが出ていた。
- ・連携して作っていく、つないでいくということが共通の意見。
- ・地元に着定してもらうには、若いうちからの学びが大切。



開設10周年記念フォーラム

あたらしいボランティア文化を育む～これまでの10年、これからの10年



オープニング

主催者あいさつ
感謝状贈呈

第1部

基調講演

「ボランティアの重要性と今後の広がりについて」

講師: 姫路市長 清元 秀泰

第2部

パネルディスカッション

「これからのボランティア活動のあり方」

コーディネーター

同志社大学大学院 総合政策科学研究科

教授 **新川 達郎氏**

1950年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修了。(財)東京市政調査会研究員、東北学院大学法学部助教授、東北大学大学院情報科学研究科助教授などを経て99年から同志社大学大学院総合政策科学研究科教授。姫路市提案型協働事業評価会座長、姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会会長。専門は市民参加論、NPO論、行政学。著書に「協働型まちづくりの政策展開」「持続可能な地域実現のためのローカル・ガバナンス」「よくわかるNPO・ボランティア」ほか多数。



※「ボランティア活動」とは「ボランティア活動」「市民活動」「NPO活動」「地域活動」などこれらすべてを包括する活動の総称

パネリスト

認定特定非営利活動法人コムサロン21
理事長 **前川 裕司氏**

生活協同組合コープこうべ第7地区本部
本部長 **陰平 康則氏**

社会福祉法人姫路市社会福祉協議会
事務局長 **森 雅彦氏**

ひめじキッズスマイル
代表 **小西 玲奈氏**

2019年10月26日(土) 開場 14:00 14:30～17:20

あいめっせホール(姫路市本町68-290イーグレひめじ)

主催 姫路市